

《履修上の留意事項》「遠隔授業のみ実施」

《担当者名》薬学部： 浜上尚也、櫻田渉、木村治、笠師久美子

歯学部： 越野寿、荒川俊哉、豊下祥史、佐々木みづほ、古市保志

看護福祉学部： 福井純子、山田 拓、増田悠佑、 片山寛信、近藤尚也、花渕馨也

心理科学部： 真島理恵、安部博史、関口真有、西郷達雄

リハビリテーション科学部： 佐々木祐二、澤田篤史、 浅野葉子、坂上哲可、 小林健史、辻村礼央奈

医療技術学部： 近藤啓、高橋祐司、沖野久美子

客員教授：大原裕介

非常勤講師：太田滋春ほか

【概要】

現代社会における保健・医療・福祉では、個体差に基づいた個々人に最も適したケア、および個人の人格を尊重し、個々人を最も幸福にするケアが求められている。また、高度に専門化し複雑化した保健・医療・福祉システムや、少子高齢化時代を迎えるにあたり、専門職業人が協働する「多職種連携」が必要とされている。この講義では、医療系総合大学として本学が掲げる「新医療人」に求められる個人差に応じた健康科学および多職種連携の理念と方法、その具体的実践について理解するため、全学部学科の学生が共に学ぶ。

【学修目標】

個人差に応じた健康科学の理念と実践について理解する。

多職種連携の理念と実践について理解する。

一人ひとりのケアのために必要とされる多職種連携の意義について理解する。

チームにおいて信頼関係を築きながら目標に向かって協働する。

目指すべき新医療人とはどのような専門職業人かを説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 ↓ 2	ガイダンス ：個人差に応じた健康科学と 多職種連携の意義と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・講義全体の目的と内容、進め方の説明 ・個人差に応じた健康科学の思想、多職種連携の基礎 <p>＜授業時間外学修＞</p> <p>予習（60～90分）：授業で扱う下記のキーワードについて、参考書、関連書、インターネットなどで調べておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携、専門職連携、高齢化社会、医療過誤、テラーメイド医療、遺伝子、専門職、コミュニケーション、リハビリテーション <p>復習（30分～60分）：学習内容を自分の言葉でまとめる。</p>	安部 博史
3 ↓ 4	多職種連携のベース 連携に役に立つこころのスキル	<ul style="list-style-type: none"> ・関係づくりに関わるこころのスキル ・対話に関わるこころのスキル ・連携に関わるこころのスキル ・セルフケアに関するこころのスキル <p>＜授業時間外学修＞</p> <p>予習（60～90分）：授業で扱う下記のキーワードについて、参考書、関連書、インターネットなどで調べておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション、ノンバーバルコミュニケーション、チームワーク、スペシャリスト、公認心理師・臨床心理士 <p>復習（30分～60分）：学習内容を自分の言葉でまとめる。学んだこころのスキルを日常生活で使ってみること。</p>	太田 滋春
5 ↓	地域医療・福祉の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人ゆうゆうの軌跡 ・地域医療・福祉の実践における多職種連携 	大原 裕介ほか

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
6		<ul style="list-style-type: none"> ・現場における多職種連携の可能性 <p><授業時間外学修> 予習(60~90分)：授業で扱う下記のキーワードについて、参考書、関連書、インターネットなどで調べておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人ゆうゆう、地域医療・福祉、地域、高齢化、介護、医療費、貧困、障がい、地域連携、社会福祉士 <p>復習(30分~60分)：学習内容を自分の言葉でまとめる。</p>	
7 8	多職種連携(1) ：歯学部 & 心理科学部	<ul style="list-style-type: none"> ・心理科学と歯学について知る ・心理科学と歯科医療の連携について理解する ・患者と家族の関係に配慮した医療人としての認識を涵養する <p><授業時間外学修> 予習(60~90分)：授業で扱う下記のキーワードについて、参考書、関連書、インターネットなどで調べておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯学、歯科医師、口腔外科、予防歯科学、心理学、臨床心理士、公認心理師、誤嚥性肺炎、義歯、変換症(転換) <p>復習(30分~60分)：学習内容を自分の言葉でまとめる。</p>	越野 寿 豊下 祥史 佐々木 みづほ 真島 理恵 関口 真有 西郷 達雄
9 10	多職種連携(2) ：看護学科 & 理学療法学科	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学と理学療法学について知る ・看護師と理学療法士の連携を理解する ・事例を通じて、チームアプローチのイメージを理解する <p><授業時間外学修> 予習(60~90分)：授業で扱う下記のキーワードについて、参考書、関連書、インターネットなどで調べておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション、理学療法学、理学療法士、看護学、看護師、保健師、助産師、訪問看護ステーション、梗塞、麻痺、急性期病棟、回復期病棟、誤嚥性肺炎、歯周病、言語障害(失語症)、4点杖 <p>復習(30分~60分)：学習内容を自分の言葉でまとめる。</p>	福井 純子 山田 拓 増田 悠佑 佐々木 祐二 澤田 篤史
11 12	多職種連携(3) ：臨床福祉学科 & 言語聴覚療法学科	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床福祉学と言語聴覚療法学について知る ・社会福祉士と言語聴覚士の連携を理解する ・聴覚言語障害・嚥下障害における多職種連携を理解する <p><授業時間外学修> 予習(60~90分)：授業で扱う下記のキーワードについて、参考書、関連書、インターネットなどで調べておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語聴覚療法学、言語聴覚士、福祉、社会福祉士(ソーシャルワーカー)、聴覚障害、言語障害、失語症、運動性構音障害、嚥下障害、リハビリテーション、失語症検査、社会復帰、社会参加、失語症友の会、会話パートナー <p>復習(30分~60分)：学習内容を自分の言葉でまとめる。</p>	片山 寛信 近藤 尚也 小林 健史 辻村 礼央奈
13 14	多職種連携(4) ：薬学部 & 作業療法学科 & 医療技術学部	<ul style="list-style-type: none"> ・薬学、作業療法学、臨床検査学について知る ・薬剤師、作業療法士、臨床検査技師の連携を理解する ・疾患の症例から治療における多職種のかかわりと連携を理解する 	浜上 尚也 櫻田 渉 木村 治 笠師 久美子 浅野 葉子

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		<p><授業時間外学修></p> <p>予習 (60~90分) : 授業で扱う下記のキーワードについて、参考書、関連書、インターネットなどで調べておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬学、薬剤師、作業療法、作業療法士、臨床検査学、臨床検査技師、生活行為、生活行為向上マネジメント、作業療法評価、薬剤師法、OTC、トリアージ、学校薬剤師、病院薬剤師、疑義照会、服薬指導、リハビリテーション、バイタルサイン、薬物療法、自助具、福祉用具 <p>復習 (30分~60分) : 学習内容を自分の言葉でまとめる。</p>	坂上 哲可 近藤 啓 高橋 祐司 沖野 久美子
15	新医療人とは	<p>まとめ : 目指すべき新医療人について理解し、説明できる。</p> <p><授業時間外学修></p> <p>予習 (60~90分) : これまでの講義・グループワークで学んだ内容を復習する。また、授業で扱う下記のキーワードについて、参考書、関連書、インターネットなどで調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門性、多職種連携、チーム医療、医療倫理、コミュニケーション、患者中心、利用者中心 <p>復習 (30分~60分) : 学習内容を自分の言葉でまとめる。</p>	古市 保志

【授業実施形態】

遠隔授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業における積極的な取り組み70%、レポート30%とする。

グループで協働することの実際を学ぶためには継続性が欠かせない。毎回の出席を強く推奨する。

レポートはネット上で指定されたフォームで期限までに提出する。

【参考書】

北島政樹 編 「医療福祉をつなぐ関連職種連携」 南江堂 2013

埼玉県立大学 編 「IPWを学ぶ 利用者中心の保健医療福祉連携」 中央法規 2009

【学修の準備】

各回の<授業時間外学修>を確認し、次回の授業で扱うキーワードについて、自分で調べる。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）と本授業科目との関連】

DP1. 人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を習得するために必要な知識を多職種連携の観点から修得する（専門的実践能力）。

DP2. 「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を多職種連携の観点から身につける（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。

DP3. 疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を多職種連携の観点から身につける（自己研鑽力）。

DP4. 多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践するために必要な知識を多職種連携の観点から修得する（多職種が連携するチーム医療）。

DP5. 歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけるために必要な知識を多職種連携の観点から修得する（社会的貢献）。

【実務経験】

浜上尚也・櫻田涉・木村治・笠師久美子（薬剤師）、越野寿・齊藤正人・荒川俊哉・豊下祥史・佐々木みづほ・古市保志（歯科医師）、福井純子・山田拓・増田悠佑（看護師）、片山寛信・近藤尚也（社会福祉士）、安部博史・関口真有・西郷達雄（公認心理師）、浅野葉子・坂上哲可（作業療法士）、佐々木祐二・澤田篤史（理学療法士）、小林健史・辻村礼央奈（言語聴覚士）近藤啓・高橋祐司・沖野久美子（臨床検査技師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療人としての実務経験を活かして、歯科医師等して持つべき多職種連携医療の実践につながる教育を実施している。